

2023年2月27日(月)

老球の細道718号

2月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

コロナから生還して新年を迎えた我が家は、2月になって今度はインフルエンザに侵襲された。今年は当たり年である。世の中は新型コロナ、ウクライナ戦争、北朝鮮のミサイルと残念な状況が続く中、新たに「ルフィー」の強盗致死ニュースが世間を騒がせた。年寄りの家が狙われるということで私もとりあえず心配した。しかし冷静になって考えたらお金はないし、あるのはささやかな夢、情熱、そして微々たる闘争心。「鬼は外！ルフィーも外！」。

2月はずっとバレンタインデーという「ハレの日」があったが今は昔。幼稚園に通う孫息子が年下の女の子からプレゼントをもらってきたので私の過去の栄光を話した。が、家族は誰も聞いてくれなかった。爺とは過去に想いを寄せて孤独に耐えなければならない。

1・読書から

◆「教える人が自分を開放する義務を有っていると思うのはまちがっています。教える人も己を貴方の前に打ち明けるのです。そうほうとも社交を離れて勘破しあうのです」〈夏目漱石『硝子戸の中』集英社〉：何事も教える方が自ら謙虚になることから指導は始まる。天下の夏目漱石でさえそのようなスタンスで教師時代を過ごしたのである。

◆「Pは不可能であると証明されない。それゆえPは可能である」〈筑波常治『人類の知的遺産・ダーウイン』講談社〉：あるチームにとって優勝することが不可能であるということを実証できなければ、そのチームにとって優勝することは可能である。

◆「きれいは汚い、汚いはきれい」〈朝日百科『世界の歴史』・シェークスピア〉：人間には誰しも二面性がある、清濁併せ呑むことが必要である。偉大な指導者が皆持つ資質である。

2・新聞、パンフレット等から

◆「生活に“教養(今日の用事)と教育(今日行く所)”があることが長生きの秘訣とわかった」〈朝日：こえ〉：年を取るごとに何をやるにしても面倒くさくなり引きこもりに。バスケットの用事があり、バスケットの大会へ行く所がある私は幸せ者である。

◆「町内会：昔は火の用心、今は人、用心」〈朝日：かたえくぼ〉：ルフィーが社会不安を煽る。こんな時こそ「どうする家康」。家康の父広忠は「人と人として作った世間。信じねばいざならぬ」と言っている(山岡荘八「徳川家康I」)。

◆「部活動で大切なのは、苦しくとも戦ってつかみとろうとすることで身につく、無形の財産です。それは生涯生きていく上で基礎となるものです」〈朝日：常総学院吹奏楽部顧問〉：世の中は学校から部活動を失くす流れになっているが、果たしてそれで良いのだろうか？

◆「娘は天才でもなんでもない。凡人です。だから信じて打てるだけの努力を日々しなきゃいけないねって言ってるんです」〈朝日：囲碁・仲邑董三段の母〉：小学4年生でプロ入りした仲邑さんは史上最年少の13歳11か月でタイトルを獲得した。朝6時起床、夜8時30分就寝。食事と散歩以外は碁漬けの日々だという。天才とは努力できる人間を言う。